

えべつ未来戦略

2019（平成31）年度～2023年度
（案）

目 次

I	基本的な考え方	
1	計画の目的	1
2	戦略実現のための基盤とまちづくり推進機能・魅力を高める戦略	1
3	計画期間	4
II	えべつ未来戦略（基盤・推進機能）	
	基盤：ともに作る協働のまちづくり	
	推進機能：えべつの魅力発信シティプロモート	5
III	えべつ未来戦略（戦略）	
	戦略1：にぎわいと活力を創出するまちづくり	7
	戦略2：安心して子どもを産み育てることができるまちづくり	9
	戦略3：子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくり	11

I 基本的な考え方

1 計画の目的

全国的な少子高齢化の影響により、日本の総人口は2008（平成20）年をピークに減少に転じ、国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の将来推計人口（2012（平成24）年1月中位推計）」では、2040年に1億728万人、2060年には8,674万人まで減少すると推計しています。

江別市においても、2005（平成17）年をピークに人口が減少していることが明らかとなり、今後も少子高齢化、人口減少が進行すると推計されています。こうした状況を踏まえ、2014（平成26）年度に「えべつ未来づくりビジョン〈第6次江別市総合計画〉」をスタートさせ、2015（平成27）年度には「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策とともに地域経済の発展に取り組んできました。その一方で、市の財政状況は一層厳しさが増しており、少子高齢化、人口減少と地域経済の縮小を克服して、まちを活性化させていくためには、限られた経営資源の選択と集中による取組の推進が不可欠です。

こうしたことから、えべつ未来戦略では、江別市の持つ特性や優位性を活かして、まちの魅力を高めていくことにつながるテーマを戦略として定め、それを実現するために必要な手立てを「えべつ未来づくりビジョン〈第6次江別市総合計画〉」のまちづくり政策の中から選択し、重点的・集中的に取り組んでいきます。

2 戦略実現のための基盤とまちづくり推進機能・魅力を高める戦略

（1）えべつ未来戦略の構成

えべつ未来戦略は戦略実現のための「基盤」づくり、まちづくり「推進機能」とまちの魅力を高める「戦略」により構成されています。

「基盤」は、各戦略を実現させていくために根幹となる共通の取組を示します。

「推進機能」は、各戦略を実現させていくために必要となる共通の取組を示します。

「戦略」は、江別市が重点的・集中的に取り組んでいくテーマを定めたものであり、まちの魅力を高めるための取組を示します。

なお、戦略を推進する具体的な事業内容については、毎年度えべつ未来戦略推進計画書で示します。

(2) 戦略を実現させる基盤と推進機能について

基盤：ともにつくる協働のまちづくり
推進機能：えべつの魅力発信シティプロモート

各戦略を実現させるためには、多様な主体や様々な世代の協力による地域課題の解決が不可欠です。このことから、市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政などの主体や高齢者をはじめとする様々な世代が、それぞれの得意分野や豊かな経験・知識等を活かして協働することが取組の根幹と考え、戦略推進の基盤として設定しました。

また、各戦略を効果的・効率的に実現するためには、積極的なシティプロモート※1が不可欠です。江別市の既存の魅力や各戦略の推進により高められた魅力を市内外へ情報発信することは、各戦略推進に不可欠な共通の取組であると考え、推進機能として設定しました。

(3) まちの魅力を高める戦略について

将来都市像『みんなでつくる未来のまち えべつ』を実現するため「江別の強みを活かせる分野であるか」、「計画期間で成果向上が見込める分野であるか」、「市外へアピールできる分野であるか」といった視点から、江別の特性や優位性を活かした、まちの魅力を高めていくテーマを選び、戦略として設定しました。

戦略1：にぎわいと活力を創出するまちづくり
戦略2：安心して子どもを産み育てることができるまちづくり
戦略3：子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくり

「にぎわいと活力を創出するまちづくり」は、地域経済の活性化により、定住人口や交流人口の増加及びまちの活力向上といった効果が期待されます。

「安心して子どもを産み育てることができるまちづくり」は、子どもを産み育て心豊かに学ぶことができる環境整備により、定住人口を増加させ、まちの活力を向上させるといった効果が期待されます。

「子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくり」は、高齢者をはじめとする様々な世代が、健康的に安心して暮らすことで、定住人口を増加させ、まちの活力を向上させるといった効果が期待されます。

こうしたことから、江別のまちの魅力を高めていく取組として、以上の3つを戦略テーマとして設定します。

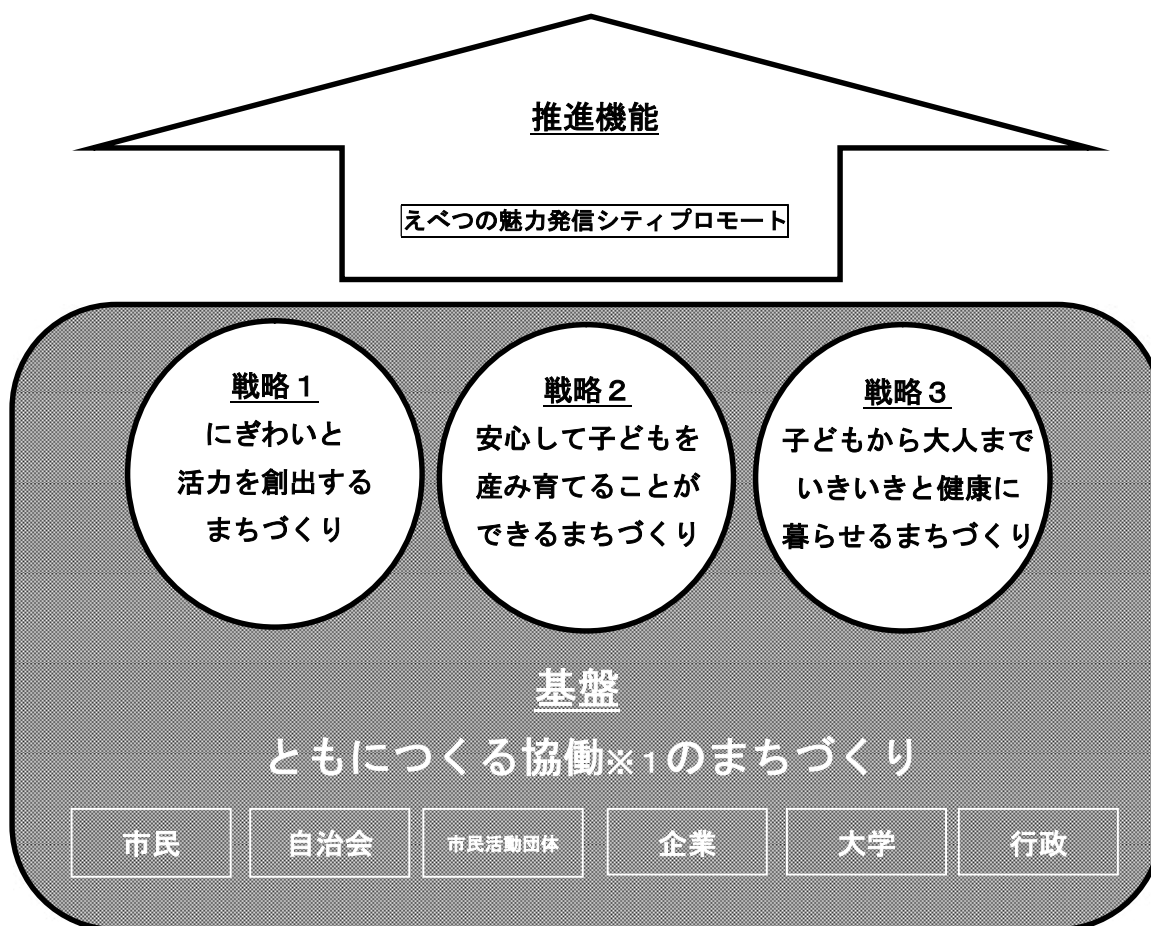
【用語解説】

※1シティプロモート：

まちを発展させるために、人や物や情報などの資源を活用していく取組であり、本計画では、「シティプロモート」を単なる情報発信にとどめずに、江別市の持つ魅力や優位性を市内外に、効果的に発信していく取組と考えています。

(4) えべつ未来戦略全体像

将来都市像 **みんなで作る未来のまち えべつ**



【用語解説】

※1 協働：「江別市自治基本条例」では、「協働」について、それぞれの役割や責任を理解し、互いに尊重しながら、地域社会の課題などを解決するために協力して取り組むことと定めています。このことから、本計画では市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体や様々な世代が、それぞれの得意分野や経験・知識等を活かしながら、まちづくりにおいて事業の企画段階から関わり、様々な取組を実践することにより、より大きな効果が期待できるものと考えています。

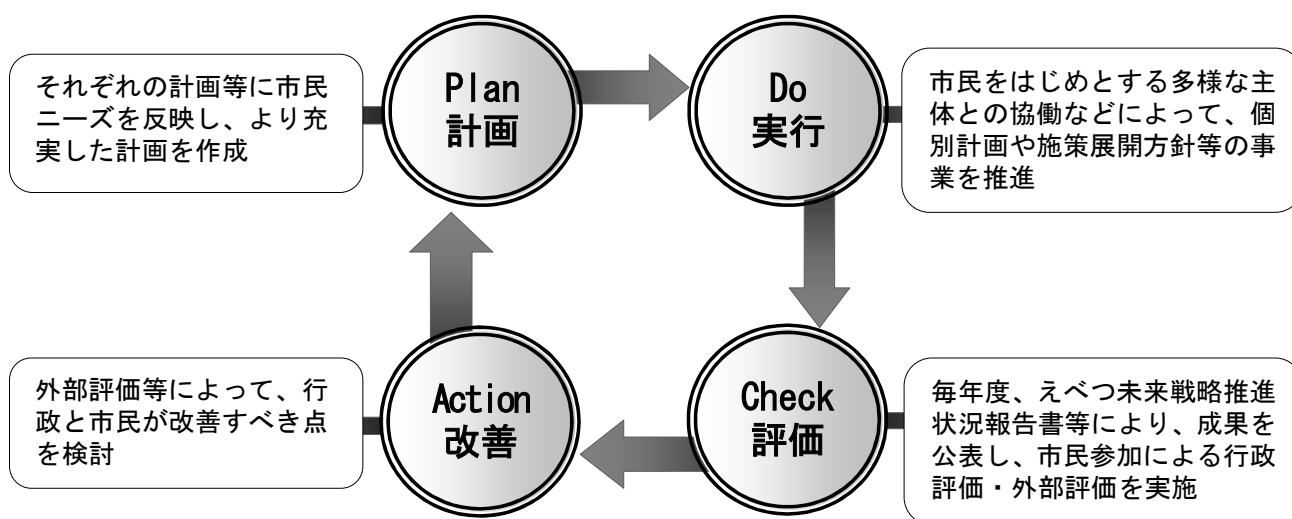
3 計画期間

2019（平成31）年度 ～ 2023年度

えべつ未来戦略は、社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、必要に応じて事業内容を見直しながら推進していきます。

また、進捗管理については、毎年度、えべつ未来戦略推進計画書及びえべつ未来戦略推進状況報告書で公表します。

（1）PDCA サイクルの確立



（2）数値目標・重要業績評価指標（KPI）の考え方

戦略ごとに数値目標を設定します。また、具体的施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定します。指標の設定にあたっては、「えべつ未来づくりビジョン＜第6次江別市総合計画＞」の各個別計画等を踏まえたものとしております。

なお、現状値は2018（平成30）年度に取得する実績値を使用し、目標値は計画最終年度の2023年度末の目標値になります。

Ⅱ えべつ未来戦略（基盤・推進機能）

基盤 ともにつくる協働のまちづくり

推進機能 えべつの魅力発信シティプロモート

えべつ未来戦略の3つの戦略を支える根幹は「協働」であり、江別市の魅力を市内外の人に知ってもらうためには「シティプロモート」を進めることが重要です。

基盤として位置付けた「ともにつくる協働のまちづくり」については、各戦略を効果的・効率的に推進するため、市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政などの多様な主体や様々な世代が、それぞれの得意分野や特性を活かし互いに協力して取り組むことが不可欠です。

また、併せて推進機能とした「えべつの魅力発信シティプロモート」については、定住人口や交流人口を増加させるために、まず江別市の魅力を市内外の人に認識してもらう必要があります。そのため、既存の魅力資源に加え、各戦略の推進により高められたまちの魅力を積極的に情報発信することで、江別市の良さを広く知ってもらえるよう取組を進めます。

基本的方向

- 市民や各種団体など多様な主体が、魅力ある協働のまちづくりに取り組みます。
- 大学や学生の得意分野を活かしたまちづくりを推進するとともに、地域での活動を通して学生の定着を推進します。
- 効果的・効率的な情報収集・発信が行われ、市民との情報共有を図ります。
- 多様な媒体を利活用するとともに、協働による江別市の情報収集・発信に取り組みます。

戦略実現に向けての数値目標

基 盤	関連戦略	数値目標	単位	現状値	目標値
ともにつくる協働のまちづくり	1	学生の地域定着に向けた大学との連携企業等の数	社・団体	35	50
	2	学校、家庭、地域が子どもたちのために連携が取れていると思う市民割合	%	79.8	82.0
	3	日頃の生活の中で地域の人との交流がある人の割合（高齢期）	%	48.8	55.0

推進機能	関連戦略	数値目標	単位	現状値	目標値
えべつの魅力発信シティプロモート	1	転入前に江別市の特産品や観光施設を知っていた転入者の割合	%	39.7	45.0
	2	転入前に江別市の子育て支援の取組を知っていた転入者の割合	%	9.9	15.0
	3	江別市の情報発信力が高いと思う市民割合（健康に関する情報）	%	45.4	50.0

Ⅲ えべつ未来戦略（戦略）

戦略1 にぎわいと活力を創出するまちづくり

まちの活力源の一つは産業です。人口減少社会を迎える中で、まちの活力を維持していくためには、産業の活性化が重要です。

江別市は道内の同規模の他都市と比べて、人口当たりの産業規模（農業、工業、商業の生産・販売額、観光入込客数など）が小さいことに加えて、市外へ通勤する人が多く、昼間人口が少ないことから、市内の市場規模も小さい状況にあります。しかしながら、江別市は、大消費地札幌市に隣接し、交通アクセスの優位性があるといった強みがあり、人材の確保や育成を図りながら地域の特性を踏まえた産業振興策を展開することで地域経済が活性化していくものと考えます。

そこで、江別市の多彩な農畜産物を軸にした「食」の魅力を拡充させ、食のまち・江別の独自性を高めた取組を進めるとともに、農商工連携や6次産業化の動きを支援するため、「食」と「農」をテーマにした交流事業や商品開発などの推進に重点的に取り組みます。また、観光産業は複合産業として直接的間接的に様々な分野に波及し、今後ますます重要性が高まる分野であることから、地域資源や立地環境を活かすことにより、江別市ならではの観光振興策を展開します。

基本的方向

- 点在する江別市の観光資源を、多様化する観光ニーズに応じて磨き上げを行うとともに、知られざる観光資源を新たに発掘し、新たな魅力を創出します。
- 産業振興に貢献する次代を担う優秀な人材の確保・育成を支援します。
- 地元農畜産物を利用した商品開発などの取組を支援するとともに、市内生産者・事業者による販路拡大に向けた取組を推進します。
- 直売所や農家レストラン、体験施設などのグリーンツーリズム※1 関連施設と連携して、「食」と「農」の魅力向上を図ります。

戦略実現に向けての数値目標

数値目標（戦略）	単位	現状値	目標値
観光入込客数	人	915,337	1,052,000
グリーンツーリズム関連施設の利用者数	人	580,762	768,000
数値目標（基盤・推進機能）	単位	現状値	目標値
【協働】 学生の地域定着に向けた大学との連携企業等の数	社・団体	35	50
【シティプロモート】 転入前に江別市の特産品や観光施設を知っていた転入者の割合（再掲）	%	39.7	45.0

【用語解説】

※1グリーンツーリズム：農山漁村に滞在し農漁業体験を楽しみ、地域の人々との交流を図る観光のこと。

具体的施策と重要業績評価指標（KPI）

（１）地域資源の発掘と活用

豊かな自然環境や歴史的遺産のほか、市民とともに新たな観光資源を発掘し、江別固有の地域資源としての活用を進めます。

重要業績評価指標（KPI）	単位	現状値	目標値
江別アンテナショップGET'S 来客数	人	32,486	37,000

（２）農畜産物の高付加価値化

他産地との差別化を図り、江別特有の銘柄として売り込むために、産業間連携により江別産農畜産物のブランド化やイメージアップを進め、高品質・高付加価値の商品化をめざします。

重要業績評価指標（KPI）	単位	現状値	目標値
えべつの農産物加工品認定数	件	11	18

戦略2 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり

少子高齢化、人口減少社会において、子育て・教育などのサービスを充実し、持続可能なまちづくりをしていくためには、人口減少を少しでも抑制する取組が必要です。

江別市は2003（平成15）年以降、人口が自然減となる状態が続いており、合計特殊出生率、有配偶出生率については、全国、北海道平均より低い状況にあるため、子育て世代への切れ目のない支援を行うことが必要です。また、子どもたちの健やかな成長のためには、親自身が子育てに自信と喜びを感じ、ゆとりを持って子育てができるよう支援することが求められています。

そこで、江別市では誰もが安心して子どもを産み育てることができるよう、子育て、教育環境を充実させるとともに、就業と子育ての両立ができる環境をめざします。また、時代の変化に対応した教育を進め、子どもたち一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな教育の推進を図りながら、多様な変化の激しい社会を生き抜いていく力を養成し、確かな学力の定着と元気で情操豊かな子どもたちを育てることに、重点的に取り組めます。

基本的方向

- 子どもを産み育てる環境を充実させ、「子どもを産み育てやすいまち」をめざし、子育て世代の定住促進に取り組んでいきます。
- 子どもが心身ともに健やかに成長していくことができるよう、主体的な「子育て」を支援する環境の整備を進めます。
- 既存の子育て支援政策を効果的に連動させ、利用者のニーズに合わせた支援を実施することで、子育て世代へのサポートを推進します。
- 安心、安全な教育環境の下で地域社会全体が連携し、次代を担う心身ともに健康な子どもたちを育てます。

戦略実現に向けての数値目標

数値目標（戦略）	単位	現状値	目標値
子育て環境が充実していると思う市民割合	%	49.7	55.0
教育施策に満足している保護者の割合	%	90.6	94.0
数値目標（基盤・推進機能）	単位	現状値	目標値
【協働】 学校、家庭、地域が子どもたちのために連携が取れていると思う市民割合（再掲）	%	79.8	82.0
【シティプロモート】 転入前に江別市の子育て支援の取組を知っていた転入者の割合（再掲）	%	9.9	15.0

【具体的施策と重要業績評価指標（KPI）】

（1）未就学期児童への支援

未就学期の多様な子育てニーズに対応するため、良質な幼児教育や保育を受ける機会を提供するとともに、働きながら安心して子育てができる環境づくりを進めます。

重要業績評価指標（KPI）	単位	現状値	目標値
待機児童数	人	96	0

（2）教育内容の充実

子どもたちが変化の激しい社会の中で生きていく力を身に付けるため、一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな教育が受けられるようにします。

また、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援が受けられるようにします。

重要業績評価指標（KPI）	単位	現状値	目標値
「生きる力」※1が身についた児童・生徒の割合	%	80.7	82.0

（3）学齢期児童への支援

学齢期の健やかな成長を助長するため、児童の自主性を尊重した運営や地域の人たちとの交流等の放課後活動を推進します。

また、児童が放課後を安心、安全に過ごすことができ、保護者が就業と子育てを両立できる放課後対策の推進に努めます。

重要業績評価指標（KPI）	単位	現状値	目標値
放課後児童クラブ入会児童数	人	776	777 (平成31年度) ※平成32年度見直し予定

【用語解説】

※1生きる力：変化の激しいこれからの社会を生きるための知・徳・体（確かな学力、豊かな人間性、健康・体力）のバランスのとれた力のこと。

戦略3 子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくり

社会生活が豊かになり健康志向が高まる一方で、不適切な生活習慣によって生活習慣病になる人が増えたほか、高齢化に伴う要介護者などの増加による社会保障費の増大を抑制していくためには、健康づくりの取組が重要です。

江別市は、2017(平成29)年度に健康都市宣言を行い、市民の誰もが元気で健康やかに楽しく毎日を送れるよう、健康寿命の延伸を図り、生活の質を高めながら心豊かに生活できる環境づくりを進めております。

そして、病気や要介護の期間を減らし健康寿命を伸ばすためには、生涯を通じて健康意識を高め、世代に関わらず乳幼児期から高齢期まで、それぞれの世代において、自分に応じた健康づくりに取り組むことや、住み慣れた地域全体で健康づくりに取り組むことが必要です。

そこで、市民一人ひとりが自分自身のところと体の健康に関心を持ち、進んで自分の健康状態を確認し、正しい生活習慣を守るといった健康づくりの取組を進めるとともに、個人や家庭、地域、関係機関、団体、行政等が連携し、共通の目的を持って、それぞれの役割を担いながら、みんなで支え合う健康なまちづくりに重点的に取り組みます。

基本的方向

- 家庭や学校、職域、地域などで、生涯を通して積極的に健康づくりや健康増進のための活動を実践、継続できるよう推進します。
- 生活習慣病の重症化予防や食育活動、生涯学習の推進、運動習慣の定着など、幼年期から高齢期まで健康に根ざした取組を支援します。
- 進んで健康的な生活習慣を実践する健やかで活力に満ちた市民の増加をめざします。
- 江別版「生涯活躍のまち」構想の実現に向けた取組を推進します。

戦略実現に向けての数値目標

数値目標(戦略)	単位	現状値	目標値
健康を維持するために心掛けていることがある市民割合	%	86.6	90.0
過去1年間に健康診査を受けた市民割合	%	66.7	70.0
数値目標(基盤・推進機能)	単位	現状値	目標値
【協働】 日頃の生活の中で地域の人との交流がある人の割合(高齢期)(再掲)	%	48.8	55.0
【シティプロモート】 江別市の情報発信力が高いと思う市民割合(健康に関する情報)(再掲)	%	45.4	50.0

具体的施策と重要業績評価指標（KPI）

（１）健康増進活動の推進

市民が家庭、学校、職域、地域などで、生涯を通して、積極的に健康づくりや健康増進のための活動を実践、継続できるよう推進します。

重要業績評価指標（KPI）	単位	現状値	目標値
健康づくり事業への参加者	人	9,927	10,000

（２）疾病予防・重症化予防の促進

食生活の改善や運動習慣の定着などにより、生活習慣病を予防するとともに、健康診査やがん検診の推進により、疾病の早期発見、早期治療に結びつけ、合併症や重症化の予防に努めます。

重要業績評価指標（KPI）	単位	現状値	目標値
過去１年間にがん検診を受けた市民割合	%	39.8	45.0

